

農研機構・九州茶業協議会・鹿児島県・合同公開シンポジウム
「日本茶の輸出拡大に向けた技術開発の現状と今後の展開方向」
開催要領

1. 趣旨

国内におけるリーフ茶需要の低迷傾向が続く中、日本茶の輸出は急伸しており、2025 年に輸出額は前年比 198% の 721 億円、輸出量は前年比 143% の 12,612 トンに達し、71 年ぶりに 10,000 トンを超えた。海外では、健康志向や和食ブーム等を背景に日本茶の人気の高まり、中でも抹茶の需要が増加している。特に、有機栽培の抹茶は、サステナビリティ、スーパーフード、リラクゼーション効果の 3 つの要素で消費者への訴求力が高く、輸出向けの有機栽培てん茶の高品質安定生産技術の開発が必要となっている。また、EU 及び英国では、従来の有機茶に加えて EU 輸出向け防除により栽培された慣行栽培茶の輸出が増えており、有機栽培とともに輸出向け防除体系の開発・普及が重要となっている。

2024 年以降、鹿児島県が荒茶生産量日本一となっており、都府県別荒茶生産量上位 10 位に九州は 5 県が含まれる。さらに、日本の有機茶園の 55% が鹿児島県と宮崎県にあることから、九州が 21 世紀の輸出向け日本茶生産拠点として発展が期待される。本シンポジウムでは、輸出向けの栽培に適した新品種、輸出及び有機栽培における総合防除体系等、有機栽培茶やてん茶等を中心として、日本茶の輸出拡大に向けた技術開発の現状を総括するとともに、今後の展開方向について議論し、わが国茶産業における戦略構築の一助とする。

2. 開催日時

令和 8 年 11 月 19 日（木）9:30～15:00

3. 開催場所

カクイックス交流センター県民ホール（かごしま県民交流センター、鹿児島市山下町 14-50）

4. 主催 農研機構果樹茶業研究部門

共催 九州茶業協議会、鹿児島県

5. 参集範囲

国立研究開発法人及び公設試験研究機関、茶生産者、国及び地方自治体行政・普及担当者、関連企業、学術団体、当該技術にご興味のある方

6. 定員 250 名

7. 参加申し込み

Microsoft Form を利用した web 形式で申し込みを受け付けます。

アクセス先：<https://forms.cloud.microsoft/r/YMAulrenKA>

ないしは右の QR コードをご利用ください。

申し込み期限：令和 8 年 11 月 6 日（金）



8. 日程・タイムスケジュール

9：20 開場

9：45 挨拶 農研機構果樹茶業研究部門 所長 草場新之助

9：50 挨拶 鹿児島県農政部 次長 四宮守人

9：55 日本茶輸出に関する情勢報告

農林水産省農産局果樹・茶グループ 茶業班 班長 保坂 俊

10：15 日本茶の輸出拡大への取り組み 日本茶業中央会 専務理事 鈴木 貞美

10：35 日本茶輸出及び有機栽培に対応した茶品種開発の現状

農研機構果樹茶業研究部門 吉田 克志

10：55 日本茶輸出及び有機栽培に対応した総合防除技術開発の現状

農研機構果樹茶業研究部門 山田 憲吾

11：15 輸出向け茶生産を支える有機質資材活用技術開発の現状

農研機構果樹茶業研究部門 廣野 祐平

11：35 かごしま茶の輸出拡大に向けた栽培・加工技術の開発

鹿児島県農業開発総合センター 茶業部 栽培研究室長 遠矢 聡志

12：00 休憩

13：00 鹿児島堀口製茶における日本茶輸出への取り組み

鹿児島堀口製茶有限公司 取締役副社長 堀口 俊氏

13：30 国内外二つの市場から考える日本茶の未来

鹿児島製茶株式会社 代表取締役社長 森 裕之氏

14：00 総合討論 日本茶輸出を拡大するために

14：55 閉会挨拶

15：00 閉会

9. 問い合わせ先・事務局

農研機構果樹茶業研究部門研究推進部研究推進室 茶業連携調整役 佐藤安志

〒428-8501 静岡県島田市金谷猪土居 2769

E-mail：cha-koho@ml.affrc.go.jp TEL：0547-45-4101